

令和3年1月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和3年1月18日（月）13時～13時35分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、山形新聞、米澤新聞、読売新聞、毎日新聞、河北新報、
置賜日報、NHK

<市> 市長、秘書広報課長

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 固定資産税の課税ミスその後の対応状態は今どうなっていますか。
- (2) コロナワクチン接種の準備の進捗状況と課題などがあれば教えてください。
- (3) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和3年1月の定例記者会見を開催させていただきます。初めに、市長から発言がございます。

○市長

はい。ご苦労様です。1月の定例記者会見の質問事項は2項目でありました。

まず1点目の「固定資産税の課税ミスその後の対応状態は今どうなっていますか。」ということでありまして、この件につきましては、令和元年度に本来非課税である30万円未満の相続者について、固定資産税が加算されていた。相続した共有名義の資産と本人名義の個人資産は分割すべきであり、これを合算していたというご指摘をいただきまして、法令等を改めて確認した結果、本市の取り扱いが間違っていたということでありまして。

この件について現在の対応状況であります。今年度においては平成30年度分の課税誤りの更正作業を12月末まで終了し、1月19日、明日ですが、更正通知書を

発送するという運びになっております。その以前の年度につきましては、令和元年度時点において法定時効の期限内であった平成27年度から平成29年度までの更正作業を、令和3年度及び令和4年度の2か年で行い、令和4年12月を目途に、対象者に対し3か年分まとめて更正通知書を発送するという方向で今作業を進めているところであります。

また、米沢市の場合、法定で10年遡るといふ取り組みをやっているということでもありますので、平成29年度以前の分につきましては国民健康保険税についても影響が出てまいります。国民健康保険税への影響額を算出するにあたっては、固定資産税の影響額を確定したのちに、世帯の移動内容、移動時期、世帯員それぞれの国保への加入時期をすべて把握したうえで行う必要があることから、効率的な作業とするため、複数年をまとめて実施するというところであります。課税ミスから今日までの対応状況については以上であります。

次に、「コロナワクチン接種の準備の進捗状況と課題などがあれば教えてください。」ということでもあります。この件につきましては、政府の方針に基づいて作業を進めているところであります。ワクチン接種に向け、庁内の人的体制の整備、システムの改修、クーポン券等の印刷・郵送、医療機関との調整・契約、接種会場の準備、ワクチン保管用の超低温冷凍庫の配備、受付などのコールセンターの立ち上げ準備、これら接種にかかる予算の作成、住民への情報提供などが、当面進めるべき事務となっております。

そこで庁内の体制であります。本日、1月18日付で健康福祉部健康課内に「新型コロナウイルスワクチン接種対策室」を設置し、今申し上げましたような業務を推進していくことといたしました。対策室には、推進チームとして健康課職員を中心に応援職員を加え、全体で11名の職員を配置し、現在、医師会と協議、接種会場の選定、コールセンターの開設や、ワクチン接種は予約制となるためスムーズな接種のための予約システムの準備等を行うということにしております。喫緊の業務としましては、ワクチン接種に必要なクーポン券の発送があります。この印刷業者については市内の印刷業者と契約を終え、クーポン券の印刷、発送の準備に取りかかっております。

また、3月から優先接種となる医療従事者のワクチン接種が始まる予定となっております。これは県が主体となってその準備を進めているところであります。

次にワクチン接種に係る課題であります。会場の選定が優先かつ喫緊の課題となります。ワクチン接種を行う会場としては、大人数の集団接種を行う基本型と呼ばれる接種会場と、そこを起点として、ワクチンを小分けし、住民や高齢者施設入所者に設置するサテライト型の接種施設について、検討するよう国から求められているとこ

ろであります。なお、この基本型の予防接種の会場は、ワクチン保管のため、超低温冷凍庫の設置が必要となりますので、早急に接種会場を確定する必要があります。現在において、予防接種の基本型の接種施設としては、主会場として、すこやかセンターを候補として準備を進めているほか、市内病院での接種について医師会と協議しながら、会場の選定について進めているところであります。

私からは以上2つの質問についてお答えをさせていただきました。以上であります。

○秘書広報課長

市長からの発言は以上になります。これ以降の進行につきましては幹事社にお渡しをいたしますので、よろしくお願いいたします。

○幹事社

では、ワクチンの課題ということで、まず会場をどうするかということが一番の課題と。そのうえで医師会との連携で困っていること、こういうところに乗り越えるべきハードルがあるのだというようなことが、もしあったらお聞かせください。特にないのであれば、どのように医師会と進めていきたいというようなお話をいただければと思います。

○市長

まず、今後、推進対策室の室長は健康課長が兼務することとなっております。健康課を中心に、医師会と鋭意検討を進めているところであります。ただ国の方針も詳細についてはっきり指示を受けている部分でもありませんので、はたして病院での接種がどの程度可能になってくるのか、いろいろな課題があると思っております。

そういったところの方向性を見ながら、医師会にどこまで対応していただけるか。担当から話を聞くと、一番はファイザー社のワクチンであるということです。ファイザー社の場合マイナス75℃という話もありまして、それを解凍すると大体10日間くらいで使い切るということになっているようです。そうしますと、大体1,000人弱の単位、ファイザーの場合は1つの瓶で5人分のワクチンの量があるというようなことで、効率的に接種を行うためには接種される方々の人数を把握しながら対応していかないと効率的に推進が出来ないと思っております。その人員体制、これは医師の皆様、そして看護師の皆様の対応も必要になってくると思っております。どのように人員をお願いできるのかというところを見ながら、そしてどの日時で何人接種をすることが可能か、そういった少し難しい管理もこれから出てくるのではないかなと思っております。そのところも医師会としっかり詰めていかなければならないと担当課からは聞いております。

○幹事社

今、人員体制でお話出ましたが、市役所では今日付けで対策室が立ち上がったと。

基本的には健康課や健康福祉部が中心で応援に入ると。そもそも、現時点では健康課は、コロナ対策全般で大変な中で、新たな仕事も増えて業務量がちょっと心配なのですが、その配慮について教えてください。

○市長

そうですね。まず1つは、実際に実施主体となるのが、健康課を中心とした対策室でやることになりましたが、問題はその以前の作業もあるわけです。住民の皆さまにクーポン券を発送する業務は相当な枚数になります。そういったところは庁内あげて対応するという確認をしております。

また、実際の課題として対策室にはやはり新たな人材も必要だろうと思います。それは臨時の職員を雇ったりとか、いずれにしましてもスムーズな発送作業、その後の接種に係る日程の問題について、支障の無いように取り組んでいく人員体制も必要になってくると思っております。健康課内の人間だけでなく、これから新たな担当の臨時の職員も含めて対応をしていかなければならないものと思っております。

○記者

時期の目途なのですが、新聞など報道でよく言われているのは、医療関係者は2月から始まって、一般、特に高齢者は3月ぐらいからという報道されているのですが、今市長のお話では医療関係者は3月からというようにおっしゃったように思うのですが。

○市長

医療従事者につきましては、我々もそういう認識で、早ければ2月末頃からというようにお聞きしておりました。ただ、今山形県知事選挙の真っ最中でありまして、こういった作業が遅れているという状況もあるようです。そういったこともありまして、おそらくこれから作業を進めていくうえで、準備はしていると思うのですが、詳しいことは承知しておりませんが、若干遅れが出てくるのではないかと心配もあるということです。

あくまでも医療従事者は早めの対応をとということで、私も国の方向性としては2月末頃からというように承知をしているところではありますが、担当からは3月に入ってからという内容でありました。

○記者

そうしますと、一般市民の接種というのは更に遅れることになってくるということですか。

○市長

いや、これは医療従事者と住民に対するワクチン接種というのは、違うのではないかなと思っております。国の方針としましては、このクーポン券の発送を、3月1日

から2週間程度の日程でしなさいということです。ただ、ワクチンがいつどのように入ってくるのかということもまだ明確になっておりませんので、そこがはっきりして、国の方向性が3月1日から発送ということになっておりますが、やはりそういう条件が整えば1日も早い接種を我々としては心がけていくべきであろうと思っております。

医療従事者は、県の対応になりますので、市の対応としては1日も早く接種できるよう医師会と協議をしながら、対応していかなければならないかなと思っております。

○記者

分かりました。3月くらいから始まったとして、市民8万人全員が受けるとするとそれなりの期間がかかると思うのですが、どのくらいの目途で考えておられますか。

○市長

まだどのくらいの目途でということについても、これは接種するのは医師会、医師、医療従事者であります。具体的な協議はまだ行っていないと思うのです。例えば毎日のように接種可能なのか、その場合、医療従事者の方にどの程度、お手伝いというか接種を行っていただけるのかと、そういったものをきちんと出して、それに基づいて住民の皆様「何日の接種になります」というところがはっきりと見えてこない、どのくらいの日数を要するかっていうところは、今はなかなか把握できないと思っております。

ただ、先ほど申し上げましたように効率的な接種を行わなければならないということでもありますので、なるべく市民の皆様、住民の皆様のご協力、ご理解をいただきながら進めていかないと、時間がかかってしまう対応では良くないなと思っております。

○記者

追加で、大人数の集団接種基本型というのは、一応、候補としてはすこやかセンターを予定しているということですか。

○市長

はい、予定しています。

○記者

先ほどは、その他に市内の病院というお話でしたが、中核的な病院なのか、それとも市内の全病院を含むのか教えてください。

○市長

それも打診はしておりますが、例えば、市立病院は改築の準備に入っているのが非常に厳しい部分もあるのかと思います。あとは、三友堂病院さん、舟山病院さんと国立米沢病院ですが、国立病院さんからは、なんとか対応しなければいけないだろうとの話は承っておりますが、まだ確定しているものではありません。私も技術的には分

からないのですが、米沢には超低温冷凍庫が2台入ってくるようです。1台はすこやかセンターになると思いますが、その他はご了解を頂いた病院での接種になって、そこに設置をするのか、そういったところもまだ明確にはなっておりません。そういったことも含めて、できれば、複数の接種会場ができれば、より効率的な接種ができるかなと思っておりますが、まだ未定であります。

○記者

そういった全体調整は会議で行われるのですか。

○市長

基本的には、国からの方針が出てまいりますので、それを一旦は県が受け止めながら、そして市町村との対応連携になってくると思うのですが、米沢市のことを考えれば、対策室の中で一番大きな課題は、やはり医療従事者にどのようにご協力をいただくかということで、医師会との協議をしっかりと詰めていかなければならない。方向性が示されるか、あとは事務的な対応になってくると思っておりますので、まずは何よりも、医師会の皆様方と、どのように体制作りをして、システムづくりをしていくのかということが課題になってくるのかなと思っています。

○記者

ワクチンの件ですが、選挙の関係で遅れているようだと言っているとのことでしたが、選挙の事務とどのような関係で遅れているのかと、医療従事者への提供と一般市民への提供は別のもと考えているので一般市民まで遅れることはないのかというお話でしたが、その根拠についての2点をお伺いしたいです。

○市長

県は、最終的な判断はこれから知事がどなたになるかで、その中での判断になると思っております。準備を進めていると思いますが、最終判断というものが遅れているのかなと思います。

医療従事者、これは、市直接ではないので、県でどのような状況になっているのかを担当者に聞いても、今はまだはっきりしていないと聞いておりますので、おそらくそのような状況があるのかなと思っております。

また、2点目ではありますが、医療従事者の皆さんについて、本来であれば先ほどご質問ありましたように、私も2月下旬頃かなと承っております。そして、市民の皆さんにクーポンを発送するのは先ほど申しあげましたように3月1日からということになっております。それで、これは強制ではありませんので、どの程度の方が接種を希望するのか。そのことによって、今度は実際に何時、何日、誰々はどこで、いうようなことになってくると思っております。

その作業をみても、市民の皆さんの接種の開始は、一旦クーポンを発送して、回答

をしていただいて、新たに今度は何日ですよと接種日、場所の案内を差し上げなければなりません。そういったことを考えると、早くても3月の下旬になります。医療従事者と、実際に市民の皆様の接種が始まる期間は、約1か月近く空くのではないかと考えております。そこを考えれば、ご質問にあったような、医療従事者と市民の皆様がダブるようなことはないであろうと考えております。

なお、そこもしっかりといつから県で接種を始めますよと、医療従事者に通知がございましたら、そこはやはりあとは市民への接種ワクチン推進について支障がないような体制でということになりますので、県の対応も見ながら、市民の皆さんへの接種も連携をとりながら日程を決めていく必要があると考えております。重なることはないと思っています。

○記者

医療従事者の接種は、米沢市の話ではなく県全体での話だということでしょうか。

○市長

これは、市として医療従事者関係の部分については対応出来ませんので、あくまでも県の対応だと理解をしております。

○記者

固定資産税の方ですが、その後に調査を進めて1番最初に発表された人数から、最終的に影響のあった方に変更があったのでしょうか。

○市長

これは、先ほどお話ししましたように、平成30年度分については、明日、更正通知書を発送すると。この納税義務者の数は、30年度については2,553人になっております。

○記者

今、最初に市で発表されたときの数字を持っていなくて恐縮なのですが、1回目の発表から増えているのか減っているのか、それとも変わらないか。

○市長

それは、担当に聞いてください。私が資料として持っているのは30年度分については2,553人ということです。

○記者

市長として、固定資産税の課税ミスに対する受け止めをお聞かせいただけますでしょうか。

○市長

30万未満は課税対象外だったということもあって、共有財産を相続した場合に合算してしまったということが原因であります。

こういった法令上のミスがないように、しっかりと特に徴税関係については、市民の皆さんの一番大きな関心のあることであります。そこは、当時この問題が発生した時も、これにはしっかりと市民の皆様が納得いくような対応で取り組むよう職員に対して話をしました。こういったミスがないように法令は法令としてしっかりと受け止めながら、理解をしながら作業を進めていかなければならないと、私は思っておりますので、このようなミスがないように努めていかなければならない、そういった方々には、大変、ご迷惑をお掛けしたということでもあります。

○記者

まず、冒頭に言えば、市長は担当に聞いてくださいってということで、当然、細かい数字は担当に聞くべきことだと思うのですが、事前に質問通告してあって、担当の課の方が出てきていないってことの方が若干不思議な気がしますので、今後、秘書広報課長も含めてご検討ください。

○市長

担当職員も同席してほしいという要望があったのですか。

○記者

ないですが、通常そういう発表があるときは、米沢市ではありませんが、当然そういう質問が出るとしたら同席するのが自然ではないかなと私は個人的に思っていますので、違うのであればまたご検討下さい。

その上でなんですが、先ほどの説明ですと、まだ今後丸2年ぐらいかけて、手続きをしていく。少なくとも2年かかる。職員の方々の負担も大変多いと思います。改めてこういう事案が発生したことについて、市長としての責任をどうお考えになっているかということをお伺いします。

○市長

今申し上げましたように、大変遺憾なことであって、今後絶対こういったことがあってはならない。徴税事務ですから市民には一番大きな関心事でありますので、あってはならない。

○記者

これに関しては当初から非常に作業量が膨大になることが想定されていましたが、今、働き方改革の中で非常に事務作業が増えると思います。調査にあたっている職員に対しては何か人的な手当てのようなことをしているのでしょうか。それとも、特定の方だけでやり続けているのでしょうか。

○市長

納税に関する事務でありますから、今のところは基本的に課内でやっています。システム上の問題もあると思っておりますので、今の段階で、他の課から応援をして新

たな人員体制でという話は聞いておりません。

○記者

コロナの件ですが、市民の皆さんは、いつからという具体的な事柄を知りたがっている声があります。明確にいつからするということの発表は、いつごろになるのでしょうか。

○市長

まず、1つは3月1日から案内を住民の皆様に発送します。それで接種希望、希望しない人もおいでになると思いますので、そういった回収をしまして、そしてどのように接種体制をとれるか、その点については医師会と医療従事者の皆さんがどのような協力体制、支援体制、接種体制でやっていただけるかということも含めて検討して、誰々さんがいつ何日、密を避けるということもありますので、おおよそどの時間単位に接種となりますという案内を改めて行うという状況になっております。

先ほど来申し上げていますように、国の方向性もありますので、ワクチンと冷凍庫がいつ米沢に入ってくるのを勘案しながら、なるべく早い時期に接種が始まるように我々としては努力をしていかなければならないと思っております。

○記者

知事選なのですが、米沢市内は盛り上がり欠けているように見えるのですが、米沢市が啓発活動をやるという話ではないとは思いますが、市長さんとしてはもっと関心を持ってもらいたいといったようなお考えはありますか。

○市長

知事選が始まる前から、コロナ禍でもあるから盛り上がり欠ける選挙になるのだろうかという判断はしておりました。

特に、密状態になるような選挙運動は出来ないということで、非常に戦いにくい選挙戦だろうと、そのことをどのように住民の皆様が受け止めておられるのか、見ていて盛り上がり欠けているだろうなという思いは持っておりました。

ただ、今日の話ですと、期日前投票はいいという話を聞いております。前回の選挙の時よりも3倍くらいの数だという話も聞いておりますので、多少は当初思っていたよりも、盛り上がりというところまで行くかどうかは分かりませんが、関心は持たれてきたのかなとは思っています。

○記者

市長さんは、新人の候補者を応援すると明言されて演説会などでもご挨拶されましたが、自分の推している候補の手応えみたいなものはいかがですか。

○市長

正直、皆さんの方がお分りなのかなと思いますが、全県1区、米沢のなかで一般的に言いまして現職は知名度がありますので、先ほどお話ししましたように、新人の方はなかなか思うような選挙戦を戦うことができない部分もあります。一般的な状況判断では、現職の知名度がどこまで有利に働くのかという思いは持っております。

○記者

今の関連で、あと数日選挙運動残っていますが、市長ご自身として何か表立ってやるということはおありですか。

○市長

公務もありますので、表立ってということは個人演説会も終わっていますし、何を陣営としてやるのかということもありますが、支援の方向について、こうだということがあれば対応をしますが、今のところは、何もありません。

○記者

もう1回、街頭で回る予定もあるようですが、一緒に街頭に立つ予定はないですか。

○市長

要請もありません。

○記者

雪灯籠まつりで、予約制というかたちで固まってきつつあるというところで、市民参加のまつりというところで、改めて例年と違うかたちですが、市長から市民に対して、おまつりをこういうふう楽しんで欲しいというメッセージはないでしょうか。

○市長

今回の雪灯籠まつりは、コロナ禍での雪灯籠まつりということで、やはり従来の雪灯籠まつりとは異なる対応をせざるを得ないという実行委員会の方針を受け止めております。ただ、この雪灯籠まつりというのは、やはり豪雪地帯米沢として、この雪を活用して、利雪、克雪もあるわけですが、そういったところから、何かをやろうというところからはじまったと思っております。あくまでも、地元の人たちで雪を活用しながらというところから始まっておりますので、私としては今回、このたびのコロナ禍での雪灯籠まつりは、やはり市民で楽しんでいただきたい。そして、市民で盛り上げていただきたいと思っております。

こういったことで、今年も前半大雪で、今小康状態ではありますが、やはり雪国米沢として、市民の皆さんとともに、雪を活用したまつり、何よりもまず市民の皆さんで楽しんでいただくのが、一番いいことだと思っております。

厳しい制約の中での雪灯籠まつりになりますが市民の皆さんにはぜひ楽しんでいただきたいと思っております。

○記者

道路関係の除雪費はいかがですか。

○市長

まだ、詳細は聞いておりません。年末年始にかけて除雪、そして排雪もだいたい1回目の排雪が終わりました。どのくらい掛かったと今の段階で聞くのもどうなのかなと思っております。まず、掛かるものは掛かるものとして、対応していかなければいけないのだろうと思っていますので、幾ら掛かったということはまだ聞いておりません。

○秘書広課長

これをもちまして令和2年度1月の定例記者会見を終了させていただきます。どうもありがとうございました。